

沖縄21世紀ビジョン構成(案)

【基本理念】

- 県民全体で共有する価値観を宣言すると同時に、あるべき沖縄の姿を実現するために覚悟が必要である旨を明示

【めざすべき将来像のイメージ】

- 美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島
- 歴史、伝統・文化を尊重する安全・安心な島
- 希望と活力にあふれる豊かな島
- 世界に開かれた交流と共生の島
- 多様な個性と能力が発揮できる島

【時代潮流と課題認識】

残すべきもの

- 地域社会が担ってきた共助・共生等の機能
- 安全・安心な暮らし
- 独特の歴史、伝統文化や誇れる県民性、長寿等
- 多様性に富む豊かな自然環境

変えていくべきもの

- 人口減少局面における経済社会の姿
- アジア・太平洋地域との交流による沖縄の発展
- 世界規模の課題解決に向けた沖縄の役割
- 今後のまちづくりのあり方
- 将来の沖縄に必要な人材の育成
- 基地返還跡地の有効活用
- 2030年の在沖米軍基地の状況
- 離島の振興と国境離島を含む広大な海域の位置付け

【将来像の実現に向けた取り組みの基本方向】

- 地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して世代間の交流を深め、コミュニティの再生を図る。
- 社会保障、保健医療システム等の再設計により保健・医療・福祉の充実を図る。
- 歴史・伝統文化等を守るための仕組みと併せ、世界に発信する仕掛けを構築する。
- ゾーニングやキャリングキャパシティ、保全のためのルール等を含め、先進的な環境共生・循環型社会モデルを構築する。
- 物質的な豊かさに代わる指標として生活の質や福祉の充実度等を含め、県民の幸福度を測る指標を検討する。
- 沖縄の優位性を発揮できる分野への積極的な参入や地理的特性を活用し、科学技術の振興と新産業の創出等を図る。
- アジア・太平洋地域との交流ネットワークを構築し、世界規模の課題解決に向けた国際貢献・協力拠点等の形成を図る。
- 快適性や安全性などの観点も含め、時間とともに価値が高まるようなまちづくりを進める。
- 人材育成の方向性を明らかにし、語学に力点を置いた教育システムの構築や沖縄らしい個性を持った人間の形成を図る。
- 基地返還跡地を、アジアの経済発展及びグローバル化に対応した産業振興や居住空間の確保等に活用する。
- 将来的には基地のない沖縄を目指す。2030年時点では、現在合意されている基地が返還されていることを想定。
- 排他的経済水域の確保や豊富な海洋資源の存在など日本の国益を担う地域として、国が対応すべき内容等を検討する。
- 県土構造の再編を視野に入れ、総合交通体系及び情報通信体系等の基盤整備を進める。

(別添)

沖縄21世紀ビジョン構成(案)関係

1 21世紀ビジョンについて

(1) 21世紀ビジョンとは

- ① 県民参画のもとに将来のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性等を明らかにする基本構想。
- ② 沖縄県として初めて策定する長期構想で、沖縄の将来像の実現に向けた県民一体の取り組みと、これからの県政運営の基本的な指針となるもの。

(2) 21世紀ビジョンと新たな計画等との関係

- ① ビジョンは上位概念。変化の激しい時代であるため、ビジョンで描く将来像の実現に向けて、現実のベクトルを修正していくことが重要。
- ② 現在、ビジョンの策定作業と並行して、沖縄振興計画、沖縄振興特別措置法、復帰特別措置等の総点検作業を行っているところ。
- ③ 総点検の中で、残された課題の解決策や今後の沖縄振興に必要な仕組み等を明らかにし、沖縄振興計画終了後の新たな計画等については、その結果を踏まえつつ、ビジョンの実現に向けて検討していく予定。

2 基本理念及びめざすべき将来像について

(1) 基本理念

- ① 基本理念の中で、何を残し何を变えていくかを明らかにし、県民全体で共有できる価値観を設定する必要がある。
- ② あるべき沖縄の姿を実現するために必要な覚悟とは、課題があるという厳しい状況を直視したうえで、目標の実現に向けて県民全体で取り組む必要があるという趣旨。

(2) めざすべき将来像

- ① 構成案ではイメージを提示してあり、今後県民意見を集約し、とりまとめていく予定。
- ② めざすべき将来像は、県民全体で共有する価値観に立脚したものである必要がある。

3 時代潮流と課題認識について

(1) 構成案では、時代の流れに伴う変化や将来像を実現するために解決を図らなければならない課題のうち、ビジョンにおいて議論すべき重点課題をとりまとめている。

(2) めざすべき将来像と、解決を図るべき課題等との関係を明確にするとともに、的確な課題設定について議論を深めていく予定。

4 将来像の実現に向けた取り組みの基本方向について

(1) 構成案では、時代潮流と課題認識を踏まえて基本方向を包括的に整理してある。

(2) めざすべき将来像及び解決を図るべき課題等との関係を明確にするとともに、内容等について議論を深めていく予定。